

(様式1)



報道資料

令和 6年 4月11日

1 件 名	農事組合法人川西「農林水産大臣賞」受賞報告会
2 日 時	令和6年4月18日(木) 9時00分～9時15分
3 場 所	山口市役所 2階 市長応接室
4 内 容	<p>農事組合法人川西が、「令和5年度農業農村整備優良地区コンクール農林水産大臣賞(農業振興部門)」を受賞したことを報告するために、市長を表敬訪問されます。</p> <p>同コンクールについては、全国土地改良事業団体連合会(全国水土里ネット)主催で開催され、令和6年3月26日(火)にシェーンバッハ・サボー(東京都千代田区)にて表彰式が執り行われました。</p> <p>1. 来庁者 農事組合法人川西 代表理事 小林 紀代士(こばやし きよし) 外5名 山口県土地改良事業団体連合会 専務理事 藏重 裕夫(くらしげ ひろお)、参事 阿武 良一(あぶ りょういち)外1名</p> <p>2. 内容 (1) 農林水産大臣賞受賞報告 (2) 歓談</p>
5 出 席 者	山口市長、山口市農林水産部長
6 問 い 合 わ せ	山口市農林水産部農林整備課(担当:岩本) TEL 083-934-2824

I. 概要

I-1. 申請団体名 ふりがな 団体名：農事組合法人 のうじくみあいほうじん 川西 かわにし

代表者 役職：代表理事 ふりがな 氏名：小林 こばやし 紀代士 きよし

住 所 山口県山口市深溝933-1

I-2. 申請事業地区名 ふりがな 地区名：山口県山口市川西地区 やまぐちけんやまぐちしかわにしちく

I-3. 事業の概要

(1) 申請対象事業の概要

事業実施主体	山口県	事業名、地区名	経営体育成基盤整備事業（ほ場整備）川西地区
工 期	平成18年度～平成28年度（事業完了後年数：7年）		
総事業費	4,940百万円（3,529千円/10a）		
受益面積	144.7ha〔水田140.2ha（うち汎用化140.2ha）、畑地4.5ha、樹園地-ha〕		
受益戸数	253戸		
主要工事 （工種と事業量を 記載）	区画整理工：144.7ha、用水路工：24.0km、排水路工：19.7km、道路工：15.0km、 暗渠排水工（地下かんがい有）：140.2ha		
標準区画規模	事業実施前 20a → 完了後 50a		
1ha以上の区画合 計面積	事業実施前 0.0ha → 完了後 55.7ha（39.7%）		
関係土地改良区	山口市川西土地改良区	関係市町村	山口市

(2) 関連する事業の概要（予定を含む。）

事業主体	山口県	事業名、地区名	経営体育成基盤整備事業（排水対策）川西地区
工 期	平成19年度～平成25年度（事業完了後年数：10年）		
主な工種	排水機場：1箇所 排水ポンプφ500×1台、φ900×2台 除塵機 一式 ゲート 一式 排水路工：L=460m		

事業主体	山口県	事業名、地区名	農業競争力強化農地整備事業 川西中地区
工 期	令和元年度～令和7年度（予定）（事業完了後年数：-）		
主な工種	区画整理工：25.4ha、用水路工：4.1km、排水路工：4.4km、道路工：3.0km、 暗渠排水工（地下かんがい有）：25.4ha		

事業主体	山口県	事業名、地区名	農業競争力強化農地整備事業 佐山北第一地区
工 期	令和3年度～令和9年度（予定）（事業完了後年数：-）		
主な工種	区画整理工：24.7ha、用水路工：5.8km、排水路工：6.2km、道路工：5.6km、 暗渠排水工（地下かんがい有）：24.7ha		

事業主体	山口県	事業名、地区名	農業競争力強化農地整備事業 佐山北第二地区
工 期	令和7年度（予定）～令和13年度（予定）		
主な工種	区画整理工：27.1ha 暗渠排水工（地下かんがい有）：27.1ha		

I-4. 推薦理由

農事組合法人川西（以下、(農)川西と記載）は、事業採択2年目の平成20年9月に設立し、事業完了後、地区の106.4ha（集積率73.5%）を集積、うち集約化面積は103.7ha（集約化率97.5%）となり、地区の中心経営体として大規模土地利用型経営を展開している。

(農)川西は、大区画化、汎用化された農地を活用し、「水稻+大豆+麦類+野菜」の複合経営の早期確立を目指し、労働力の確保、機械装備、省力・低コスト技術の導入などに積極的、計画的に取り組んだ結果、生産が減退し遊休農地が増加していた地区において、耕地利用率が71%から149%（地区全体では134%）に、大豆、麦類の作付面積が8.0haから66.6haに、タマネギなど高収益作物が2.0haから4.8haと生産を飛躍的に増加させるなど地域農業の再興に多大な貢献をした。

また、法人の多くの理事は、構成員だけで労働力の確保をすることは必ず限界が来ると考え、人件費の負担に耐えられるか不安があるなか、法人の安定経営に向けた最優先事項として、将来の法人経営を担う人材の確保・育成を法人の総意とし、平成27年に山口県立農業大学校を卒業した女性1人を採用したのち、本年までに男性3人を採用、来年女性1人の採用を内定している。

これら若い就業者には大型農業機械をはじめ、ドローンやリモコン式草刈機の操作を任せるなど若者の能力とやる気を引き出す工夫のほか、理事会への参加を通じて、経営方針や経営の現状・課題の共通認識を図るとともに、経営管理研修やマーケティング研修などの職場外研修への参加により、オペレータとしてだけでなく、法人経営を担う人材として育成している。

さらに、休憩室やシャワー室の整備、育児・介護休暇の制度化とともに取得促進に向けた環境づくりや退職金制度の創設など福利厚生の実施も図っている。

(農)川西は、オペレータ作業や法人経営など多様な活躍をする農業大学校卒業生の姿に触発され、同法人への就業を目指す後輩が増加しており、また、職場環境、若年職員の育成方針に魅力を感じ、県内に302ある集落営農法人の中で、農業大学校生の就職希望が最も多い法人となっている。

このことは、(農)川西が若者の就業の受け皿となり、地域の未来を支える貴重な戦力として育てていることに対し、市、県関係者から高い評価を得ている。

さらに、(農)川西の堅実な経営展開、将来ビジョンを持って法人運営をしていることは、川西中地区や佐山北地区など周辺地区の農家にも認知されており、安心して農地を任せられる唯一無二の法人の存在であることから、事業導入の合意形成も円滑に進み、川西中地区は令和元年、佐山北第一地区は令和3年に事業採択された。

なお、(農)川西は将来の規模拡大に備え、川西第一地区、第二地区及び川西中地区等新規事業地区を3ブロックに分けた「3農場制」の布石として、本年から若手職員を川西第一地区、第二地区の主任として配置し、より多くの実践経験を通じ、農業管理責任者に向けて人材育成を図っている。

以上のとおり、これまでも地域農業再興に多大な貢献をしているが、今後は3つの新規事業地区においても、担い手の中心として農地の受け手となり、170ha規模の県内最大級のメガ法人として山口市南部の農業振興に多大な貢献をすることは確実である。

よって、農業農村整備優良地区コンクール農業振興部門にふさわしい取り組みをしていることから、山口県土地改良事業団体連合会として推薦する。